

ひかりのこ

光の子



No.122 2006.12.25

●今年の聖句 神は言われる。「あなたを見放すことも、見捨てる事もない。」
(ヨシュア記1:5)



クリスマスの祝福が豊かにありますよう

お祈りいたします。

社会福祉法人 光の子どもの家

teko.

「メリークリスマス！」 挿絵・中島英子

「灯台」

灯台も大根も立つ岬かな
灯台へ出る道大根隧道

灯台と富士の間の大根かな

左眼をひらき右眼をひらく冬

手袋は愛の十指にゆきわたる

神の子の声の引力冬うらら

灯台に子等の笑顔に聖夜来る

落合 水尾
(浮野)主宰

続・トムソーヤ達の朝

どもたちは毎年、素晴らしいページ
エント（イエスさまの御降誕劇）を私
たちに見させてくれる。

このところ、新聞やテレビのニュースで、いじめや「履修単位不足」教育基本法の改正など、教育の問題が毎日報道されている。子どもたちの心に添うことわざせず自分の保身に窮々としている大人の姿を、子どもたちは冷めた目で見ていることだろう。

「生きた教育とはこのようなものなのか……」と、心をひどく揺さぶら

私は自分の受けた教育のことを思つた。当時としては珍しい大学の附属小・中学校に通い、いわゆる良い教育を受けてきた私だったが、の中に何が残っているのだろう。娘たちにこんなに熱い思いをもつ

光の子どもの家は、今年二十二回目のクリスマスを迎える。この年月の毎日の営みの中に、職員の方々の並々ならぬ祈りと愛があつたことを私は知っている。

設立当時の祈りや理念をますます大切にし、「光の子どもの家」が家族の愛を失つてしまつた子どもたちにとって、笑顔を取り戻す家族共同体であるよう願つている。

今年も子どもたちの笑顔あふれるクリスマスとなりますように。

3

「家」であり続けるため

竹 花 信 惠

強い風が吹き荒れた翌朝は空気がきれいに洗われたようで、関東平野のこの地からも遠くの方に真正白に輝く富士山が見えました。

十一月三日。早いものでもう二十二回目となつた「感謝の集い」を事開催することができました。何と多くの方々に応援していただき支えられているのかを子どもたちと共に実感するひとときを与えていただきました。いつものように私たちの反省には準備の遅さと、たくさんの行き届かなかつたこと不手際が並べられるのですが、それにも関わらず駆けつけて下さつた方々が力を合わせて下さつた事を重ねて感謝申し上げます。

私たちの家の中高生たちも、前日まで表情が冴えなかつた高校生も含めて、裏方として大活躍してくれました。そしてまた彼らの先輩である卒園生たちも、それぞれの都合をつけて、頼もしい力を貸してくれました。出会えたものたちが、同窓会のように顔を見せてくれる日にもなつています。

その数を上回る卒園生たちをこれまで「社会」に送り出しました。設立以来、この家が彼らの「実家」であり続けたいという願いがある

のですが、そのために何が出来るのかが問われ続ける今日この頃です。

先日も卒園生の状況について知らされ、全職員で話し合いました。「彼のためにこの家に連れ戻す」「部屋はどこを提供しよう」「食事はグループホームで」と集まる心と差し出す手。「それが彼のためになるのだろうか」という迷いと疑問いつも試行錯誤の私たちが結局行き着いたのは、彼らのSOSの発信先として私たちが成り得るよう長いスパンで見守り続けることだけでした。当たり前ですが、彼の代わりにも、誰の代わりにも私たちが生きることはできないと改めて考えさせられました。と共に、SOSを捉えた後どう対処するか、準備と覚悟が求められます

連日、「いじめ」「自殺」そして「虐待」という言葉を見ない日はないような社会状況が続いていますせめてSOSを出せる相手、感じ取ることの出来る相手がいれば、「次」が見えてくることもあるかもしれません。「いのち」が守られることより大切なことはないでしょ

う。

この家で子どもたちの笑顔のすばらしさを私は知りました。恐怖



で固まつた表情で入所に至り、大きな声で泣けるようになり、そしてとびっきりの笑顔をみせてくれるようになつた子どももいます。「表情」を捉えられる位置で見守り続けていくことが私たちの責任です。生まれてきた喜びをたくさん味わうことが出来ますように。

朝晩の冷え込みが身にしみます。あつという間に暗くなる今、やらかな日差しが貴重です。暗闇の中に、クリスマスのイルミネーションがきらめく季節となりました。私たちのすべてを、始めから終わまで見守つていて下さるイエス様のお誕生日を盛大に心からお祝い致します。

今年も、たくさんのご支援を頂き、多くの方々のお祈りに支えられたことを深く感謝しております。今後とも「光の子」と共に育つことが出来ますよう、どうぞよろしくお願い致します。

先日のグループ展も、町の文化展と重なり、その上近所の法事と重なつたりして、一つの体でそれらを完璧にこなす事はできない。

東京でのグループ展も、そのような状況の中で行われた。もう二十七年も続いている。先ず作品の搬入である。三十人の参加者が、思い思いの作品を搬入する。絵の人、彫刻の人、工芸の人と、いろいろなやり方で作品を持ち込むのだが、北海道や九州の人など、御本人が出て来るだけでも大変なのに、ある程度大きな作品は荷造りをして送らなければならない。私も知り合いの人々に頼んで運んでもらった。これには大助かりなのだが、やむを得ない事情で少し遅れてしまい、小さくなつて会場

展覧会の楽屋裏

先日、グレープ展が終わった。一
つ山を越した。ほつとしている。
誰が、いつ頃言い出したのかわか
らないが、季候の良い秋には、いろ
いろな期待が込められて、食欲の秋
スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋
などと言い習わされている。したが
つて、様々な行事が重なり合う事に

「雪化粧」じゃないの?」と確かめに行くと「広辞苑で調べてあります。あのまま書いてください。」ときた。博学がいるものだ。

れ【雪化粧】じやないの? と確かめに行くと「広辞苑で調べてあります。あのまま書いてください。」ときた。

お客様も多種多样。しかし出品者の友人知人などが、やはり多いようである。また、活字でしか知らないかった作家などが来る事もあり、いろいろな展覧会を見ているんだなあと感心させられる事もある。

私の場合、利根川で写生している時、全く偶然に出会った品の良い老夫婦が、見に来てくれた事は、嬉し

お客様も多種多様。しかし、出品者の友人知人などが、やはり多いようである。また、活字でしか知らないかった作家などが来る事もあり、いろいろな展覧会を見て、いるんだよなあ



学者もどきのつぶやき ⑰

多忙な日々の合間に落ち込む私

山形大学
学長 仙道 富士郎

学者もどきのつぶやき ⑦⁵

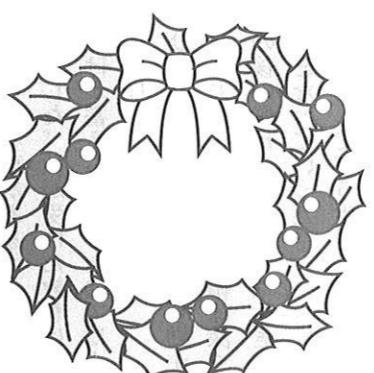
多忙な日々の合間に落ち込む私

それにもかかわらず、感謝の言葉を口にすることが出来ないのである。

いっぱい入っている電子手帳が手元から消えうてしまつたのである。新幹線のなかで書き物をした記憶があつたので、妻にくだんの遺失物センターに電話で訊ねてもらつたが、届いていないという。二匹目のドジョウはそんなに容易く捕まらないらしい。この電子手帳のデータはパソコンに転送が出来るようになつており、秘書のパソコンに小生の予定が残つていたので、予定真っ白という惨事からは免れだし、また彼女がパソコンに残つていた予定表を手帳に書き写して渡してくれたので、いまこうしてのうのうとして、原稿などを書いていることが出来るのである。

ところが、その後がいけない。テニス大会の日から少なくとも三ヶ月は過ぎているのに、ハイソックスで隠されていた脛の下部と日に曝されていたその上部との間がまだクッキリと色分けされているのである。話の成り行きから変な

書いたりした後にこの原稿に取り掛かつた。



「あの人画廊荒らし?」「あらしじやなくてタツマキか?」「いや、美術愛好家だよ。」「美術愛好家じゃなくてパーティ愛好家だよ。」「ただ図タクしいだけなんだよ。」などなど。

「展覧会の楽屋裏、結構タイヘンナゾス。」

品群は、その分野を越えて何かが伝わってくるものだ。

のつまみ類やビールなど。「鹿児島のチヨー貴重なショーチュード」。という差し入れもあつた。コップを持ちながら作品の前で批評やら議論やらを始める人がいる。こんな時の他人の意見は、案外本音が多く、制作のヒントになる事も少なくない。

そして翌日からのオープンである会期中の毎日、会場当番が付けられる。なるべく一人以上。でも、これも余り厳密なものでなく「友達とお茶を飲んでくるよ」「食事に行つてくるよ」など誰かに頼んでいく事もある。しかし、当番の時、お客様の少ない時などは、じっくりとみんなの作品を見る事ができる。油絵あるいは水彩画あり版画あり、彫刻や焼き物などとみんな肩の力を抜いて、そして自由な構想によつて作られる作

A decorative border of holly leaves and berries on the left side of the page.

日焼けが消えていくのは、皮膚が早いスピードで再生してくるからなのである。日焼けが直らないということは、私の皮膚の再生能力がひどく落ちていて証拠。また

ことをいうが、小生は男としては色が白く、いつも日焼けは目立つのが、こんなに長く日焼けのあとが残っていた記憶はこれまでない。一ヶ月前ころから気になりだし、気がつくといつも脛を眺めている。少しずつ色の違いは小さくなり、気がついてはいるものの、いまだ

あかり窓

心理室から

今年は暖かいクリスマスになりそうですが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

今年も様々な行事があり、私はカメラを持ち歩くのが好きなので、写真を撮る機会も多くありました。

この春にアルバム係だった根本さんが退職され、春以降は焼き増しだけで子どもたちに写真を渡すということも私自身でやるようになりました。そうすると、写真を渡すときの子どもたちの嬉しそうな表情、写真を撮っている時の「またようだいね」という言葉に触れ、思い出が写真に残る大きさを改めて感じました。関わる大人がめまぐるしく変化してきた子どもたちにとって、写真は自分の歴史を振り返るかけがえのない証になるものだと思います。これからも心を込めて写真を撮っていただきたいと思います。



季節のおとずれ

竹花家

クリスマスおめでとうございます。今年も皆様のお支えのおかげで子ども達と共に豊かなクリスマスの準備を迎えています。

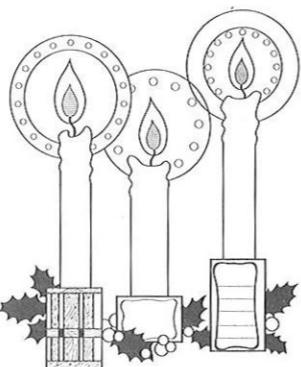
竹花家は築三十年以上はする家をきており、台風などの強風の時には家が壊れるかと心配になるくらいです。特に冬場のこの時期は、利根川の土手沿いにあるこの家には日光連山や赤城山からの吹き下ろしが日常です。

ある日の食卓で「宝くじを当てて新しい家を建てよう」という途方もない計画がありました。新聞折り込みの住宅広告を見ながら「個室がない」「大きなベッドが欲しい」「犬が飼いたい」「サッカーのできる庭が欲しい」などなど当たりもない宝くじで想像を豊かにしておりました。この秋、みんなの期待を受けある宝くじを購入し、なんと三千円当選。新しい家購入には遠く及びませんでしたが、地域では評判のケーキで幸運をわかつあり、楽しい食卓になりました。神様このように日々楽しい会話を糧をうけてください感謝いたします。

穴水 裕介

光の中で

佐藤家



は多いのですが、彼女は去年より確実に成長しています。その彼女の頑張りにサンタがご褒美をくれれば：と思いつつ、「でも中国の黄色いサンタかも：」と付け加える私。「いやだよお！華美は普通のがいいの！」とまたも目をまん丸にする華美。

今年もここでクリスマスを過ごせる事に、心から感謝します。メリクリスマス。

田口 貴子

河のほとりで



誰がマリアとヨセフになるのか：に大きな関心が集まります。ただ、ここ数年は高校三年生がマリアとヨセフを演じることになつていて、子どもたちは覚悟をしているようですが：。

マリア役になつた子どもたちは、マリア役になつた子どもたちは、「あー、今年はマリアだよ。」と思います。しかし、実はそれよりも「誇らしさ」が強かつたのではないだろうか：と思っています。そして、マリアやヨセフを演じた翌年の春、彼らは様々な新しい道へ旅立つります。

卒園生の出入りの多い倉澤家のあいの夕食に、歴代のマリアが熱揃いしました。どのマリアも「社会」という舞台で頑張っています。もししかしたら、ヨセフ：を連れてくる日も近いかもしれません。

鈴木 洋一

毎年、今頃の時期になると話題にあがるのはページエントのことです。



クリスマスおめでとうございます。皆さんには、クリスマスと聞いて何を連想されるでしょうか。私が子どもたた頃は、サンタクロース、プレゼント、ケーキなどをまず始めに連想していました。しかし、キリスト教と馴染みのある光の子どもの家の子どもたちは少し違っています。

倉澤 智子

子どもたちの季節 仙道家

いるのです。しかも、残っているのは頭と骨のみ：。内臓も身もきれいに食べ（手はベタベタでした）ひとこと、「サンマ好き！」、「いちばん目玉がおいしい！」

季節の食材を大勢でお腹いっぱいです。

先日、夕食のメニューに脂ののったおいしそうなサンマの塩焼きが出ました。六歳の美歩はお魚が苦手です。よく朝食のメニューに出る鮭などは、バラバラにほぐしあしばらくにらめっこ：。そして口の中に入れても、「ごくんできないう！」とぐずり始めてしまいます。

そんな彼女が、身も骨も内臓もついた「サンマの塩焼き」をどう食べるか、私は不安で、ちょっぴり楽しみでもありました。夕食が始まり、子どもたちは何これ？「骨がささるー」と口々に言いながらも、あぶらのつた、ふつくらしたおいしいサンマを頬張ります。



原田家日記

木枯らしが木々の装いを変え、クリスマスを迎える準備を早々と済ませたかのような寒さが続きます。

す。

原田家では今年高校を卒業する真子が、十一月に就職の内定を頂いたのがトップニュースです。遅ればせながら具体的に就職活動を提出。面接、常識力テストを受けて、あれよあれよという間に一度目の就活で内定を勝ち取ってきた真子。本人はもちろん、高校の先輩も驚き、わたしたちも本当に驚かされました。

季節のお支えに心から社会へ飛び込むまでにできる限り用意をさせてください。中学で光の子どもたちができますように整えてください。

皆様のお支えに心から感謝申上げると共に、一層の豊かな祝福をお祈り申し上げます。

鈴木 洋一

ブリーズ



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

2006年10月1日▶末日

2006年10月

幼児5名 小学生15名 中学生8名 高校生8名 措置外5名計
41名

1日 地区運動会

4日～5日 関東ブロック職員研修会が群馬県みなかみ町にて遠藤めぐみ 守口健一郎が出席 菅原哲男がシンポジストで240名の参加で 新しい児童養護施設のあり方と家族への関わりをテーマに 日頃出会うことのない現場を支える若い人たちとの対話を共にしての情報交換や 群馬大学学長の含蓄のある講演そして現場を支える専門家の討論などの非日常が日常をつなぐための2日間

8日 幼稚園運動会 朝から日本晴れの小さな体に期待と不安を満たして年長さんになった美咲 美歩 成黎が出場 まだ分からぬルールを年中さんたちに教えながら 鼓笛パレードでは旗手の美咲 太鼓の美歩 成黎はシンバルを最高の演技

9日 開設以来の強力な応援を惜しまない搜真女学院より中学部の3名の教師たちが見学と交歓の半日を熱心に楽しく

11日 開設間もない頃から続いている大利根町赤十字奉仕団と光の子どもの家後援会合同の構内整備のご奉仕をすっかりきれいになって第23回感謝の集いの準備

○児童養護施設内での大人の子どもへの不適切な関わり報道が 埼玉県内で更に5施設があったと県の調査で明らかになる 社会福祉への思想や理念の欠如とも思われる本県の福祉施策のインフラ整備の立ち後れと社会的激動への対応の不適切もその背景に

施設だけを責めて問題の解決は遠のく

12日～14日まで 光の子どもの家の創設理念の源泉である小舎制養育研究会(飯田進会長)の研修・総会が「生活を楽しむ」を主題に仙台市で 主催側で菅原哲男が牧野由紀子と鈴木洋一が参加 牧野は 施設という場所での生活のあり方について自らのそれを見直す機会になった 鈴木は愛され方さえ知らないでやって来る子どもたちとの日常の中で「ここにいること」で安心や安定を与えるには愛情や想いだけではなく それを伝える技術や理論などの知識が必須であることを強く感じたと 激烈なインパクトの3日間

13日 東小就学児検診へ成黎

16日 虐待かしつけかという線引きが困難な中で親権者との合意が成立せず児童福祉法 第28条の適用も検討しているという小学1年生男子 井川陸がとりあえずその生活と教育を保証するための一時保護で大利根町及び教育委員会のご理解を得て入所 小さな体にいっぱいの不安を詰め込んで 光の子どもの家で最も優しい原田家の遠藤が大きな決意と持ち前の繊細さを十分に発揮して担当して受けとめる このような入所がほとんどとなっているこの国の動きと家族の実態が切実

24日 原道小就学児検診へ美咲、美歩

26日 田村さん散髪奉仕 数年間続く子どもたちの清潔整容への尽力と私たちへのボランティア魂を静かに突きつけながら 今月も

<10月の物品ご寄贈>

斎藤康光 白石一男 若柳慶雅 大塚工務店 斎藤米店 埼玉スポーツ用品小売商業協同組合 他多数の各位様 感謝 皆様の善意を子どもたちへの関わりの力に致します(くら)

||||| ————— 反 射 光 ————— |||||

☆木枯らしと言えば、たき火、そして焼き芋となるのですが、環境保護の時分、おおっぴらには言えません。しかししながら火のあたたかさ、ぬくもりがうれしい季節です。心が寒くて冷たくて凍えている時、あたためることのできるものは何でしょうか。

☆卒園生が今年社会へ出て、その感想は『一寸先は闇』であることを知ったとのことでした。『一寸先は光』だよ」と返事をしました。

☆暗いニュースが続きますが、「人間が変わることができる」可能性を信じて行きたいと思います。そしてまた何が変わつても絶対変わらない信頼を持つ対象として神さまがいて下さることも伝えています。

☆様々なことがセンセーショナルに報道され、そのことが更に悲しみを増すことにつながりませんように。何かある度に責任の押し付け合いをすることになりますんように。静かなところで、メリクリスマス。

(のぶ)